

パリ連続襲撃事件と『パリはお祭り』

伊藤 英一*

目次

1. パリ連続襲撃事件と『パリはお祭り』
2. パリ連続襲撃事件の衝撃とバタ克蘭劇場
3. バタ克蘭劇場近くでの街頭インタビューからウェブの世界へ
4. 自爆襲撃と神風 (kamikaze)
5. 『パリはお祭り』と『寛容論』のベストセラー入り
6. パリはお祭り

1. パリ連続襲撃事件と、『パリはお祭り』

フランスのパリで、2015年11月13日夕刻から深夜にかけて起きた連続銃撃爆発事件は、悲惨で衝撃的な事件であった。厳戒態勢の中、メディア上でも多くの時間が、凄惨な状況を伝えるために割かれてきた。それにもかかわらず、パリでは、人々の気分を盛り立てるような言葉でもある『パリはお祭り (Paris est une fête)』が、二つの動きから注目を浴びている。一つ目の動きは、ヘミングウェイの遺作『パリはお祭り (Paris est une fête/The Moveable Feast/邦訳書名・移動祝祭日)⁽¹⁾』が、ベストセラーとなったことである。事件の三日後、灰色の週末明けの月曜日朝、街頭テレビのインタビューに答えた77歳になる女性が、この遺作を何度も読み返すことが必要とコメントしたことが、きっかけとなった。若い世代により、このコメントが「我らのマミー (おばあちゃん) のアドヴァイス」としてウェブやYouTube上で人気を博しベストセラーに入り、一時は版元でも品切れになる程の売れ行きとなった。緊急増刷分が出回り始めた12月の第1週はベストセラー第10位に復活ランクイン、第2週には第3位に駆け上っている。年末を控えたフランスでは、主だった文学賞が発表され、受賞作品がベストセラーを競うのが恒例となっているが、そのような文学作品を差し置いて、百年近く昔の話がランクインした。2014年に好調な売れ行きを示したピケティの『21世紀の資本』に続く快挙とも言えよう。

もう一方の動きは、その本の売れ行きにあやかってであるが、パリ市庁が、パリの文化やレジャーのプロモーションのために、この『パリはお祭り (Paris est une fête)』をキャッチフレーズとして採用、パリ市の広報広告、特に街頭広告やSNSでキャンペーンを展開し始めたことである。⁽⁵⁾

厳戒態勢が続く悲惨な事件の記憶も覚めやらぬパリで、「お祭り??」、「それも100年近くも前のパリを描いた本が??」といった、素朴な疑問も湧いてくる。そんな『パリはお祭り (Paris est une fête)』を巡るトレンドの背景を探ってみたい。

*いとう えいいち 日本大学法学部新聞学科 教授

2. パリ連続襲撃事件の衝撃とバタ克蘭劇場

フランスのパリで、2015年11月13日起きた連続襲撃事件は、次の三点から見ても、衝撃的な事件であった。第1点は、襲撃を行った加害者の多くが、フランス国籍を有するという点である。第2点は、犠牲となった被害者の大半もまた、フランス人であり、失われた130人の命の内、102人がフランス国籍であった。⁽⁶⁾そして、第3の点は、襲撃された6か所のいずれもが、パリの人々にとって、庶民的で身近な場所だった点である。国際的な街パリであっても、どちらかと言えば地元の人々が多く集う場所が、襲撃の対象とされたことが、悲劇の様相を深くした。

特に、90名にのぼる犠牲者を出したバタ克蘭劇場 (Théâtre du Bataclan) では、襲撃死亡した加害者3人全員が、二十歳代でフランス生まれのフランス人であった。築150年を経た、中国風建築の庶民的娯楽の場が、悲劇の舞台となったのだ。バタ克蘭という劇場名は、「シャンゼリゼのモーツァルト」とも称されたジャック・オッフエンバックが作曲したオペレッタのタイトルに由来しているが、以来、きゃりーぱみゅぱみゅやPerfumeの公演により、日本人にとっても馴染みのある劇場となっている。そんな大衆的な憩いの場所で、自国民であるフランス人が、同じ自国民であるフランス人を攻撃するという悲惨な事実を、目の当たりにせざるを得なかったのである。

3. バタ克蘭劇場近くでの街頭インタビューからウェブの世界へ

11月13日(金)午後9時40分に、3人のフランス人加害者がバタ克蘭劇場に侵入、開始された襲撃は、日付も14日(土)に変わった深夜の午前零時58分には終止符を打たれている。3時間18分で完了した事件であるが、死者は犠牲者90名、加害者側3名の計93名を数えたことになる。あまりにも厳粛な事実を前に、どのように対処すべきか、戸惑いを隠せない人々も多かったのではなかろうか。

そのような惨劇のあったバタ克蘭劇場の近くで、16日(月)、犠牲者に花束を捧げに訪れた女性がBFMテレビの街頭インタビューを受けた。ダニエル (Danielle)⁽⁷⁾とだけ名乗った、彼女のコメントは、次の3点のみに絞られた、28秒弱の、簡潔なものであった。

- ① 亡くなられた方々に花を捧げることが大切だ。(C'est très important d'apporter des fleurs à nos morts.)
- ② ヘミングウェイの『パリはお祭り』を、何度も読み返すことが大切だ。何故なら、私たちは古い文明で、私たちの価値を高みに掲げなければいけないから。(C'est très important de voir, plusieurs fois, le livre d'Hemingway "Paris est une fête", parce que nous sommes une civilisation très ancienne et nous porterons au plus haut nos valeurs)
- ③ 自由に優しく帰依している5百万人のムスリムと友愛を結び、アラーの名の下に殺戮を行う野蛮な1万人と戦おう。(nous fraterniserons avec les 5 millions de musulmans qui exercent leur religion librement et gentiment et nous nous battons contre les 10 000 barbares qui tuent, soit-disant au nom d'Allah.)

このコメントが、フランス第1位の情報専門チャンネルであるBFMテレビで放映されると、若い世代にとっての「ウェブ上のマミー (Mamie/おばあちゃん) が登場」、「ウェブが夢見ていたおばあさん (grand-mère que le web rêve d'avoir)⁽⁹⁾」といった反応が相次ぎ、インターネットを通じて、共感の輪が広がっていった。

BFMは、ビジネス情報専門のFMラジオ放送として、アラン・ヴェイル (Alain Weill) 会長兼CEOの下に、2005年11月28日に開局されている。「フランス第1の情報チャンネル (Première chaîne d'info de France)」をスローガンに掲げ、地上波テレビ、衛星放送、インターネット放送にも進出、2008年にはスローガンどおり、事実上の市場総合シェア第1位となり、フランス情報チャンネルの筆頭となるまでに急成長したメディアである。

そんなBFMテレビのインタビューで語られたダニエルのコメントは、ウェブ上で拡散するだけでなく、新聞や他メディアが話題として取り上げることで、ネットワーク効果が発揮された。

このBFMテレビによるインタビューは凄惨な襲撃のあった暗い週末明けの、2015年11月16日 (月曜日) の早朝ライブで放映されたが、その夕刻には、ダニエルとだけ名乗った質素で素朴な雰囲気女性が、本名はダニエル・メリアン (Danielle Mérian)、年齢は77歳、元弁護士、女性の権利保護、特にアフリカの女性のための活動に貢献して来た、等々の個人情報ネット上で明らかにされ、それらがウェブ上の「ダニエルおばあちゃん (“mamie Danielle”)」の好イメージを醸成して行った。もともと、この呼称を、当の本人は嫌がっているようではあるが。⁽¹⁰⁾

これらのコメントは、短いながらも、意味深長であり、その解説を兼ねて、以下に補足説明をしておきたい。

- ① ダニエルのコメントの冒頭で触れられた「犠牲者に花を捧げることが大切」という件は、ダニエルに花を贈ろうというウェブ上の提案があり #DesFleursPourDanielle のハッシュタグが設けられ、ダニエルから「私にではなく、犠牲者に花を」という再コメントが出、振り込まれた金額は、彼女が参画している団体に寄付されるといった展開を見せた。⁽¹¹⁾
- ② 「ヘミングウェイの『パリはお祭り』を読み返す」との話は、地味な売りに推移していた作品に光をあてるきっかけとなった。⁽¹²⁾

このヘミングウェイの自伝的作品は、出版経緯、内容、訳名、等々、なかなか複雑で、少々説明をしておく必要がある。ヘミングウェイは、この作品の推敲に熱意を示していたとも見受けられるにもかかわらず、その途上である1961年に、自死している。その死から3年後の1964年に、彼の4人目で最後の妻であるメアリー (Mary Hemingway) の手で、刊行されたのが『The Moveable Feast』の初版であり、仏訳名では『Paris est une fête』⁽¹³⁾、邦訳名は『移動祝祭日』⁽¹⁴⁾となっている。

結婚して間もないヘミングウェイが新婦ハドリーを伴い、駆け出しの貧しいジャーナリストとして、パリで執筆業の修練を始めた1921年から、1927年ハドリーと離婚するに至るまでの時代がカバーされている。「狂騒の1920年代 (les années folles)」を背景としたパリが、この作品には描き込まれていることになる。

ただし、1964年に刊行された『The Moveable Feast』⁽¹⁵⁾の編集や内容については、論議が続いていた。

そこで、ヘミングウェイの孫にあたるシーン (Seán Hemingway) 等の手により、修復版 (Restored Edition) と副題を付した新版が、2009年に刊行されるに至っている。⁽¹⁶⁾

この新版と旧版のいずれが選択されるべきか、との論議はあるものの、現在、米仏で、新規購入して読まれている本は、新版の方であり、邦訳版は旧版の方であることは留意してお

く必要があろう。

また、新版の方が、初婚の妻ハドリーへの感謝と懺悔、オマージュ (hommage) といった面が明確に出ており、二人が新婚生活を送ったパリの描写とそんなパリへの賛歌とが、素直に読者に伝わってくる構成になっている。

- ③ ダニエルのコメントの中で、ネット上の好意的反響ないしは賛意が多く見受けられ、とりわけムスリムの人々から感謝の念が伝えられたのが、「自由に優しく帰依している5百万人のムスリムと友愛を結ぶ」との呼びかけであった。このことは、今日のフランスにとって、最も困難な問題への対処案として、フランスの若い世代にアピールするところがあるのだと考えられる。

フランスの基本理念として、①自由 (liberté)、②平等 (égalité)、③「博愛ないしは友愛」(“fraternité”)、の三つが挙げられる。この襲撃事件直後、オバマ大統領からフランスに向けて送られたメッセージの中にも、最も古い同盟国である米仏両国が共有する理念がこの「liberté, égalité, fraternité」であるとされ、オバマ大統領自身の明瞭なフランス語により、BFM、CNN等を通じて伝えられている。⁽¹⁹⁾

ただ、三つ目の理念である fraternité は、先に「博愛ないしは友愛」としておいたが、正確な意味合いを和訳するのが難しい。ラテン語で人類全員を意味する frater の語源を重視すれば、博愛 (=fraternité universelle) と理解される。そうだとすれば、博愛とすることで間違いはない。しかし、人々が所属する組織の枠組みを前提として考えると、同じ修道院で修行する同士、血を分けた兄弟といった、組織の成員相互間の友愛ないしは兄弟愛 (fraternité) であり、無差別な博愛とは違うことになる。そうであれば、誰を友、誰を兄弟と看做して、愛を形成し、親愛関係を結ぶ (fraterniser) のかという点が、難問として残される。

ダニエルは、この友愛や兄弟愛を結ぶ相手は、「自由に優しく帰依している5百万人のムスリム」だ、と簡明に断言したのである。

2015年初頭における、フランスの総人口は約6630万人であると発表されている。⁽²⁰⁾ この総人口の内、おおよそ6%から7%程度が、出自等の観点から、ムスリムに親近感を抱く層ではないかと言われている。しかしながら、フランスでは、直接、間接にかかわらず、個人的な情報のセンサスは禁じられており、⁽²¹⁾ 宗教にかかわる事項も、これに含まれている。ただし、海外のシンクタンクによる調査、また国内の調査機関による、社会学的手法を主体とした人口的な推計、分析等は実施されている。

ピュー・リサーチ・センター (Pew Reseach Center)⁽²²⁾ は、フランス国内における、ムスリムは2010年で470万人と報告している。また、L'Institut national d'études démographiques (国立人口研究所 /Ined) の推計では、ムスリムが多数を占める国々を出自とする人々は5~6百万人であり、内、おおよそ3分の1にのぼる人々が、ムスリムとして信教し、実践していると見積もられている。⁽²³⁾ ダニエルの「自由に優しく帰依している5百万人のムスリムと友愛を結ぶ」との呼びかけは、フランスに在住するムスリムの大半の人々と、愛を形成し親愛関係を結ぶ (fraterniser) のだとしたことになる。

BFM テレビへの反応や、ウェブ上のコメントには、多くのムスリムからの感謝も寄せら

れており、また、ムスリムの人たちとの友愛を大切にしたいといった意見が顕著である。

ただし、この呼びかけは、「アラーの名の下に殺戮を行う野蛮な1万人と戦う」と続いている。戦う相手を特定し、数字的にも明示したことも、若者たちの理解を容易に得られた理由の一つではあろう。

もっとも、この1万人という数値の多寡については検証しておきたい。ブルッキングス・ドーハ・センター (Brookings Doha Center)⁽²⁴⁾ が2015年8月に刊行した報告書では、シリアおよびイラクに赴いている外国人戦闘者 (Foreign Fighters/FF) は3万人弱と、2015年4月の国連報告による2万2千人との推計よりは多く見積もっている。このFFの出身国としては、チュニジアの3千人、サウジアラビアの2千5百人等、中近東諸国が多いが、西欧諸国からとしては、フランスから1550人、イギリスとドイツから各々7百人、ベルギーから440人と続いている。

フランス出身の1550人の内、266人が、シリアおよびイラクからフランスに戻っており、内29人程度が、フランスの治安上の潜在的脅威となっている、とフランスの情報関係当局は見ている。しかし、戦闘目的で、シリアおよびイラクと往還しているものに限定しない場合、フランス国内で、将来的に暴力行為に及ぶ可能性を否定できない層としては、1万人以内、あるいは推定する機関によっては5万人⁽²⁵⁾に近い人数が算出されている。

従って、ダニエルの「アラーの名の下に殺戮を行う野蛮な1万人と戦う」で言及された1万人という人数は、「殺戮を行う野蛮」との形容の是非はさて置き、^{あた}中らずと^{いほど}雖も遠からずではあろう。

また、ダニエルのコメント全体への反応も、花を捧げることに併せて『パリはお祭り (Paris est une fête)』の本そのものを犠牲者に捧げたり、ムスリムの人々からの感謝、ムスリムの人々との友愛や連帯といった、肯定的なものが多いことは救いである。

しかし、ムスリムそのものが神の前での平等とムスリムによる共同体成員間の友愛ないしは兄弟愛を基調していることを考えると、ダニエルのコメントに言う友愛と両立できるものなのか困難な面も否定できない。

4. 自爆襲撃と神風 (kamikaze)

ここまで本稿の執筆でも使用を避けてきたものの、かねてから気掛かりになっている単語のことに触れておきたい。

フランスで用いられている、自殺(的)襲撃、即ち「実現するにあたって、行為者の意図的死亡を伴う攻撃の一類型」⁽²⁶⁾を意味する単語を、2015年12月30日11:30JSTの時点で、グーグルでフランス語版のニュース検索をしてみると、そのヒット数 (résultats) は、次のとおりである。

- | | |
|---------------------------|---------|
| ① attentat-suicide (自殺襲撃) | 107,000 |
| ② bombe humaine (人間爆弾) | 43,200 |
| ③ kamikaze (神風) | 668,000 |

上記の3例を比較してみると、フランスでの使用頻度は、③の「kamikaze (神風)」が最も高いことが解る。そこから、垣間見られる通り、日本とフランスでは、その単語から受け取る歴史的感覚に相当の開きがある。

本稿では、「バタ克蘭劇場を襲撃死亡した加害者3人全員……」といった表現をして来たが、これを「回りくどい」と感じられた方も多と思われる。が、フランスの新聞やテレビでは、これを「les 3 kamikazes du Bataclan (バタ克蘭の3神風)⁽²⁷⁾」と、表現されるような事例が圧倒的に多い。しかし、バタ克蘭劇場の自殺襲撃実行犯を kamikaze と表現されて、これを素直に、あるいは心穏やかに、端的な表現と受け入れられる日本人は、少ないのではなからうか。少なくとも、近親者や知人に、第二次世界大戦中の特別攻撃に関わらざるを得なかった人がいる場合、その心中は察するに余りある。

一方、日本では、このような行為を「自殺テロ」と表現する場合もある。フランス革命後に遡る恐怖政治を思い起こさせるような「テロ」との表現にもっぱら使われるようになった単語「terreur (テルール)」は、フランスでは歴史的に想起される意味はもちろんであるが、恐怖を意味する単語として現在も日常的に使われている。更に、この恐怖 (la terreur) を、政治的、宗教的、思想的な目的で使用、行使することをテロリズムと定義した場合、これを「テロ」と短縮することはフランス語の名詞としては考えにくい。

逆に、外来語を受け入れるものの、その原義や含意に左程の考慮を払わず、むやみに簡略化したカタカナ語を利用する傾向のある日本も、気が付かないまま、先方を傷つけている可能性も否定はできない。

日仏両国で日常的に用いられる単語が、潜在意識に蓄積していくイメージには重いものを感じられ、少々怯え (terrifiant) を伴う身震いがする。

更に、誇り高いアラブ・ムスリム文明 (La civilisation arabo-musulmane) の歴史を有しながら植民地化の屈辱を味わった地域では、1905年5月27日から28日にかけて対馬沖で繰り広げられた日本海海戦の勝利を、自らのもののように歓喜した人々も少なくない。オリエントの覚醒が促された時代から受け継がれた系譜を辿ると、第二次世界大戦中に特攻で殉じた人々への畏敬の念を抱きつつ、kamikaze と呼ばれることを高揚感でもって受け止める層があることも理解されよう。日本が、二十世紀の前半、往時の列強に対峙することにより、オリエントの人々に覚醒させた矜持と誇りが、地中海沿岸をはじめとした世界に、「日本パラドックス (Le Paradoxe japonais)」の影を、今もなお、落としているのだ。そして、この事実は、今日の日本の我々の果たすべき責任と、日本の生きるべき道を暗示してくれている。

5. 『パリはお祭り』と『寛容論』のベストセラー入り

パリでは、2015年1月および11月と衝撃的な襲撃事件が続いたが、いずれの場合も、その直後から、古典ともいえる書籍が、ベストセラーになるという現象が見受けられた。

2015年1月7日シャルリ・エブド誌 (Charlie Hebdo) 編集局が襲撃された後、ベストセラーとなったのは、今から二百数十余年前になる1763年に刊行された本だった。ヴォルテール (Voltaire) の『寛容論 (Le Traité sur la tolérance)⁽²⁸⁾』が、その本である。無料提供のKindle版に限らず、ウェブ上において無料で読めるにもかかわらず、2015年末には、18万5千部のハード・コピー版が売れたという。内容的には、フランス南西部トゥルーズで亡くなったプロテスタントの織物業者ジャン・カラス (Jean Calas) の名誉回復を訴えたもので、2014年には、1万部程度の売り上げに留まっていた啓蒙思想の古典が、2015年には18倍強の売れ行きを示したことになる。プ

ロテスタントとカトリック間の宗教的対立の中で、寛容の必要性を訴えた具体的な内容が、今日の世界的状況においても有効であると受け入れられているのであろう。もっとも、著作権の切れた作品の、フランスでの販売価格は安く、『寛容論』も、新書版としてジェリュ (J'ai lu)、およびフォリオ (Folio) の二つのシリーズで刊行されているが、いずれも2ユーロ (約260円) で、総売上高に換算しても、つつまじやかなものではある。

2015年11月の連続襲撃事件の後、ヘミングウェイの『パリはお祭り (Paris est une fête)』がベストセラーとなったことは、すでに触れたが、増刷分が市場に出回るようになった2015年12月に入ってからは、週2万3千部⁽²⁹⁾のペースで捌けていると報じられている。

このヘミングウェイの『パリはお祭り (Paris est une fête)』は、百年近く前になる「狂騒の1920年代 (les années folles)」のパリを背景としている作品である。また、ヘミングウェイが自死する直前まで手を入れていたとはいえ、その原稿の大半は、「1928年3月からパリのオテル・リッツ (Hôtel Ritz Paris) に預けられたままとっていたものを、1956年11月にリッツからの要請で引き取ったEHのイニシアル入りのルイ・ヴィトンのトランクの中にあつた⁽³⁰⁾」と、新版序文の冒頭に記された話がフィクション⁽³¹⁾でないとするれば、執筆時もまた、実質的に百年近く前になる作品ということになる。

「パリには如何なる終わりもありえない (There is never any ending to Paris)⁽³²⁾」と、ヘミングウェイが不断の永続性を強調したパリではあるが、そんなパリは、あくまでも第1次と第2次の両世界大戦の狭間^{うたかた}にあつた1920年代 (les années folles) の狂騒のパリで、泡沫のように過ぎ去ったようにも見受けられる。

ヘミングウェイ夫妻が、パリからオーストリアのリゾート地シュルンスへ出かける話が、新版の中程にある16章⁽³³⁾、旧版では最終章に描かれている⁽³⁴⁾。そこで描かれる生活は、強い米ドルを満喫する生活であり、絶望的なハイパー・インフレに苦しむドイツを横目に見ながらの生活である。シュルンスで見受けられる厳しい経済的格差は、ヒットラー総統の支配を許すことにつながり、米国やパリにも厳しい影響を及ぼすようになるのである。

しかし、この『パリはお祭り (Paris est une fête)』を、ヘミングウェイが失ってしまったハドリーへの懺悔録、あるいはオマージュであるとして読んでみると、逆にヘミングウェイが失ってはいけなかったものも出てくるのかも知れない。ひいては、パリが失ってはいけなかったものも見える可能性も否定できないのだ。

6. パリはお祭り

『パリはお祭り (Paris est une fête)』の売れ行きが好調であることに相乗りして、パリ市庁は、パリの文化やレジャーのプロモーションのために、この『パリはお祭り (Paris est une fête)』をキャッチフレーズとして採用⁽³⁵⁾、2015年12月23日からパリ市内での広報広告、特に街頭広告やSNSでキャンペーンを展開し始めた⁽³⁶⁾。

貼り出された野外ポスターは、いずれもヘミングウェイが描いたパリの風景にヒントを得た写真を背景に⁽³⁷⁾、落ち込みの激しい業界の立て直しを企図したものである。

華やいだホールを背景に、「幾百ものコンサート・ホールと劇場が貴方を魅了します (Des centaines de salles de concert, de théâtre prêts à vous enchanter)」、歩道で喫茶する人々をバツ

クに「1万3千軒余のバー、カフェ、レストランが貴方を楽しませます (Plus de 13000 bars, cafés et restaurants prêts à vous régaler)」、花屋さんの後ろ姿には「80のマルシェと1万4千余のお店が貴方を熱中させます (80 marchés et plus de 14000 magasins prêts à vous emballer)」といった言葉を、『パリはお祭り (Paris est une fête)』が囲むようにデザインされている。

地味とも思えるポスターではあるが、⁽³⁸⁾ 厳戒態勢の続く中での公的プロモーション活動としては穏当なものなのであろう。

パリ市当局は、劇場やコンサート・ホールの顧客は20%から30%の減少、レストランでは30%の減、といった現状からの回復を図る必要に迫られている。フランスの国立統計経済研究所 (Institut national de la statistique et des études économiques ; INSEE) の予測では、事件の悪影響は第3四半期から0.1%減にとどまる、⁽³⁹⁾ と予測されているが、観光ビジネスに関わる部門への経済的影響には厳しいものがある。

また、パリ市の『パリはお祭り (Paris est une fête)』キャンペーン開始の前日、2015年12月22日には、パリ市民や観光客のために、「パリで何をする (Que faire à Paris)」⁽⁴⁰⁾ かを見出すためのサイトが開設された。そのサイトでは、第1ページの下、3分の1程を使って、大きくパリの紋章に使われている「揺蕩えども沈まず (Fluctuat nec mergitur)」の文字が、掲げられている。観光プラン立案のための検索機能を高めるために、もっとスペースを用いた方が良さそうな気もするが、パリ市の今の意気込みを表しているような面は微笑ましくもある。

思い起こせば、ヘミングウェイの『パリはお祭り』の描写する1920年代、米国ではアメリカ合衆国憲法修正第18条により、飲料用アルコールの製造・販売等が禁止されていた時代でもある。

ヘミングウェイの『パリはお祭り』の素晴らしい点の一つは、飲むことや食べることを味わい、散歩を楽しんでいるシーンである。2016年に入ってのパリの施策に、毎月一回ではあるものの日曜日のシャンゼリゼを歩行者天国に開放したり、春から夏にかけてチュイルリ橋からアンリ四世橋にかけてのセヌ川右岸を歩行者用にする等、⁽⁴¹⁾ 新しい動きのあることも好ましい。

日常的な『パリはお祭り (Paris est une fête)』が戻ることを祈りたい。

注

(なお、以下の注に付したウェブ等の参照日時は、特に記載の無い限り、2016年1月7日08:00JST現在のものである。)

(1) 本論では、フランスでの話題に焦点をあてていること、また生前のヘミングウェイの意図を勘案すると共に、『パリはお祭り』と呼ぶこととする。なお、ヘミングウェイの自死から3年後、旧版が1964年に出版された際、『The Moveable Feast』の書名が採用された経緯、Moveable (動く / 付随して回る) および Feast (お祭り) の意味、いずれの単語も中央部分 (下線を引いた部分) が ea となっている理由については、諸説あるものの、下記邦訳書の解説に詳しい。

cf. アーネスト・ヘミングウェイ：移動祝祭日、高見浩訳・解説、新潮文庫、新潮社、平成21年、pp.306-330.

(2) <http://www.bfmtv.com/mediaplayer/video/zapping-tv-le-message-de-mamie-danielle-n-ayez-pas-peur-indignez-vous-698826.html>

(3) http://www.rtbef.be/culture/litterature/detail_classement-des-ventes-de-livres-paris-est-une-fete-entre-

dans-le-top?id=9164308

- (4) <http://www.paris.fr/actualites/paris-est-une-fete-s-affiche-dans-la-capitale-3225>
- (5) <http://www.parismatch.com/Vivre/Mode/Paris-est-une-fete-889939>
- (6) Bilan au 20 novembre 2015 (2015年11月20日現在)
- (7) <http://www.bfmtv.com/societe/danielle-avait-emu-la-france-apres-les-attentats-elle-arrive-sur-twitter-935925.html>
- (8) “C’est très important d’apporter des fleurs à nos morts, c’est très important de lire plusieurs fois le livre d’Hemingway Paris est une fête. Nous sommes une civilisation très ancienne et nous porterons au plus haut nos valeurs. [...] Nous fraterniserons avec les 5 millions de musulmans qui exercent leur religion librement et gentiment et nous nous battons contre les 10.000 barbares qui tuent, soi-disant au nom d’Allah.”
- <http://www.marieclaire.fr/,danielle-merian,789301.asp>
- <http://rue89.nouvelobs.com/2015/11/17/chez-danielle-dame-paroles-sages-zut-barbares-262157>
- (9) <http://tempsreel.nouvelobs.com/en-direct/a-chaud/13947-bienvenue-attaquesparis-danielle-merian-militante-monde.html>
- (10) http://www.lexpress.fr/actualite/societe/video-danielle-merian-ne-veut-plus-qu-on-l-appelle-mamie-danielle_1745154.htm
- (11) «La cagnotte est terminée et elle atteint 16 130 euros. J’ai 1824 gentils donateurs et je vais pouvoir reverser ça à mes associations», dit-elle avec sa douce voix »
- <http://rue89.nouvelobs.com/2015/11/17/chez-danielle-dame-paroles-sages-zut-barbares-262157>
- (12) How Hemingway’s *A Moveable Feast* Has Become a Bestseller in France; Following the deadly attacks in Paris, the author’s memoir about life in the city has sold out of bookstores, *The Atlantic*, November 23, 2015.
- <http://www.theatlantic.com/entertainment/archive/2015/11/ernest-hemingway-paris-attacks-a-moveable-feast/417294/>
- (13) Ernest Hemingway ; *Paris est une fête* [*A Moveable Feast*], Première parution en 1964, Traduction de l’anglais (États-Unis) par Marc Saporta. Gallimard
- (14) アーネスト・ヘミングウェイ : 移動祝祭日、高見浩訳、新潮文庫、新潮社、平成 21 年、330pp.
- (15) Hemingway, Ernest - *A Moveable Feast*, Charles Scribner’s Sons, New York, 1964.
- (16) Hemingway, Ernest & Hemingway, Seán (ed.) ; *A Moveable Feast: The Restored Edition*. New York: Scribner’s, 2009, 240pp.
- (17) Hotchner, A.E. ; Don’t Touch ‘A Movable Feast, *The New York Times*, July 19, 2009.
- (18) Ernest Hemingway ; *Paris est une fête*, Édition de Seán Hemingway. Avant-propos de Patrick Hemingway, Édition revue et augmentée en 2011, Avant-propos, introduction et inédits traduits par Claude Demanuelli, Collection Du monde entier, Gallimard, 312pp.
- (19) Barack Obama : “Liberté, égalité, fraternité”, Elsa Conesa, Correspondante à New-York, Le 14/11/2015 à 01:42,
- <http://www.lesechos.fr/politique-societe/societe/021476250168-barack-obama-liberte-egalite->

fraternite-1175076.php#

- (20) Insee - Évolution de la population jusqu'en 2015
http://www.insee.fr/fr/themes/tableau.asp?reg_id=0&ref_id=NATnon02145
- (21) *ex.* Loi n° 78-17 du 6 janvier 1978 relative à l'informatique, aux fichiers et aux libertés
 Version consolidée au 05 avril 2011. Article 8,
 I. - Il est interdit de collecter ou de traiter des données à caractère personnel qui font apparaître, directement ou indirectement, les origines raciales ou ethniques, les opinions politiques, philosophiques ou religieuses ou l'appartenance syndicale des personnes, ou qui sont relatives à la santé ou à la vie sexuelle de celles-ci.
- (22) Pew Research Center's Forum on Religion & Public Life, « The Future of the Global Muslim Population Projections for 2010-2030 », Pew Research Center, janvier 2011, pp.22-39.
- (23) Entre 5 et 6 millions de musulmans en France, Le Point du 28 juin 2010
- (24) Charles Lister ; Returning foreign fighters: Criminalization or reintegration?, Brookings Doha Center Publications, August 13, 2015, 12pp.
<http://www.brookings.edu/~media/Research/Files/Papers/2015/08/13-foreign-fighters-lister/En-Fighters-Web.pdf?la=en>
- (25) Judah Grunstein ; What's Even More Dangerous than ISIS? Overreacting Against Our Muslims, Politico Magazine, November 20 2015.
- (26) « un type d'attaque dont la réalisation implique la mort intentionnelle de son auteur. »
- (27) "les 3 kamikazes du Bataclan", この表現だけで、約 211,000 のヒットとなっていた。(2015 年 12 月 30 日 11 : 30JST 現在)
cf. ex.
<http://www.lefigaro.fr/actualite-france/2015/12/09/01016-20151209ARTFIG00053-le-dernier-kamikaze-du-bataclan-aurait-ete-identifie.php>
- (28) Voltaire ; Traité sur la tolérance, s.n. (édition originale), 1763.
https://fr.wikisource.org/wiki/Trait%C3%A9_sur_la_tol%C3%A9rance/%C3%89dition_1763
 Traité sur la tolérance : A l'occasion de la mort de Jean Calas, 7 septembre 2013, J'ai lu (7 septembre 2013), 110 pp.
- (29) Julie Clarini ; Traité sur la tolérance » et « Paris est une fête », best-sellers inattendus, LE MONDE | 25.12.2015 à 11h01 · Mis à jour le 26.12.2015 à 15h57.
http://www.lemonde.fr/livres/article/2015/12/25/traite-sur-la-tolerance-et-paris-est-une-fete-best-sellers-inattendus_4838098_3260.html
- (30) Seán Hemingway ; Introduction, *in* "Hemingway, Ernest & Hemingway, Seán (ed.) ; A Moveable Feast : The Restored Edition. New York: Scribner's, 2009", p.1.
- (31) Hemingway, Ernest & Hemingway, Seán (ed.) ; A Moveable Feast: The Restored Edition. New York: Scribner's, 2009, pp.229-236.
- (32) *ibid.* p.236.
- (33) *ibid.* pp.113-123.

- (34) アーネスト・ヘミングウェイ：移動祝祭日、高見浩訳、新潮文庫、新潮社、平成 21 年、(*op. cit.*), p.280.
- (35) <http://www.paris.fr/actualites/paris-est-une-fete-s-affiche-dans-la-capitale-3225>
- (36) <http://www.parismatch.com/Vivre/Mode/Paris-est-une-fete-889939>
- (37) Campagne d'affichage «Paris est une fête»
http://www.lepoint.fr/societe/paris-est-une-fete-utilise-pour-la-promo-de-paris-17-12-2015-2003432_23.php
- (38) http://www.liberation.fr/france/2015/11/14/l-etat-islamique-revendique-les-attentats-de-vendredi-a-paris_1413412
- (39) <http://fr.reuters.com/article/businessNews/idFRKBN0U02W020151217>
- (40) <http://quefaire.paris.fr/>
- (41) «piétonisation des berges de Seine rive droite entre le pont des Tuileries et le pont Henri IV», Libération du 6.01.2016 ,
http://www.liberation.fr/direct/element/des-vux-nature-pour-anne-hidalgo_27998/
« Paris : les Champs-Élysées seront piétons une fois par mois à partir du printemps », Le Parisien du 6 Janv. 2016.